



小島友実の あの馬の STORY



サムシングジャスト

厩舎ではオフモードのサムシングジャスト。写真撮影でも微動だにせずでした

○月4日、新潟競馬場で行われた新馬戦で見事、初陣を飾ったサムシングジャスト。直線で狭い内側を伸びたレースぶりは、今後の期待を抱かせる内容でしたよね。今回は管理する松田国英調教師に色々とお話を伺つてきました。

「この馬は那須野牧場の生産馬で、河野社長から、母のソルマルオトメは現役時代に活躍し繁殖牝馬としても期待していると伺つてしました。昨年夏、新冠のナスノフターで初めてサムシングジャストを見ました。1歳春に胸前に外傷を負い、当時はまだその傷が残っていましたが歩様には問題なく馬体や歩きがとても雄大だったと記憶しています」

育成は順調に進み、今年4月末に栗東トレセンへ入厩。まずはゲート試験に挑みましたが、松田調教師は「この馬の特徴をしっかりと見極めて対応したかったのです。

「サムシングジャストは馬体に伸びがあり、手脚や胴、首などあつとあつあるパーソンが長いです。いつこの馬は体幹を使う時にセッティングがないと失敗する事があります。急いでタスマの馬もゲート試験になかなか受けられませんでした。理由はゲートを出る時に体幹を上手く使えず、右の手を蹴り上げて遊びながら体を整えてゲートを出ようとするのですが、スピードに乗れないのであります。」

「この馬はゲート練習を続けたら、馬のスケールが小さくなり、G-1を狙うという目標路線から外れてしまう。そこでソリフレッシュさせるためにチャレンジオーバーで淡路へ放牧に出しました」

試験に合格。「G-1」に向けての調整が始まりました。そして松田調教師は、「この馬の特徴を掴んでいました」。

「サムシングジャストは淡路での走りもひどいところが、この馬の調教には、まさに特徴があるのですが、それは併走馬に並ぶと御せないくらいの勢いで先に出て伸びます。でも併走馬の後ろに立てるところへ入ってきて走れるのが通りが出来るので、栗東トレセンでも順調に調教が出来ました」

「私のような特徴がある馬だから、初戦の指示はしません。しかし今回、福永騎手には『スルード』があつ過ぎるので、馬の後ろに立って折り合つて競馬をして」と話しました。実際、福永騎手は好スタートから外の馬を行かせて、狭い所のインの好位でじっとしてしまったよね。直線は相当な脚発力で「ハサ」と前に馬の間を突き抜けました。この乗方は前が開かなかつた負けねバター。初戦としては危ない戦法。結果が出来良かったです。手前味噌ですが、調教師がこの馬がレースで力を發揮するために必ず乗ればよいを理解していたといふ事でしょ?」

初戦後に放牧に出た、9月4日に帰厩。12日に栗東へ行き、サムシングジャストに余りました。担当は、かつて持ち乗り調教助手としてクロフネやブロードアーリーを担当し、現在は厩務員として松田厩舎を主とする渡辺鶴がいます。

「この馬の馬を抱いています。普段から大人しくて、元気な感じで後をついてくれなくてよ(笑)。人懐こくて優しく可愛い馬。毎日、顔を見るのが楽しみです。初戦があの勝ち方でかかり、牝馬クラスで乗せた感じはしないと思うのですが、日々対応してます。強くての希望は飼葉食いですね。もう少し食べられれば馬体もぐんぐん育つのかね」

馬房で大人しい点だけではなく、松田師がいい話します。

「オフもつながりません。この馬が良いですね。厩舎に入る時は完全にオフで、も一歩や調教に行くと、馬に並びて手につかれて前に出るG-1を狙つために馬の良さを壊さないのに、活かしてあげることが大切ですね」

師の言葉からは、「G-1を狙つたために」は、じつはレースが頻繁に出ています。「当厩舎ではG-1馬を担当したバタツバタの人おつまわいの馬も預かりせて頂く以上、やはりG-1を夢見ています。次は10月6日のサウジアラビアロイヤルCの予定で牡馬相手になりますが、マイルは競馬を覚えさせねば最適ですからね。阪神G-1、桜花賞、オーケース、秋華賞と続く牡馬G-1の舞台に向けて、1戦1戦を大事にして出走せます。会員の皆様に夢を共有し、頑張つて行きますので応援よろしくお願ひします」

今回、松田調教師がサムシングジャストの特徴を十分に把握し管理されている事が伝わってきて、頗るしげ感じました。この後の活躍が楽しみです。

(取材日：9月12日)

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00～20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。

profile